

平成24年度 なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告会

# なごやの生きものの調査と 外来生物対策

平成25年 **2月2日(土)** 愛知芸術文化センター 12階  
アートスペースA

## フ ロ グ ラ ム

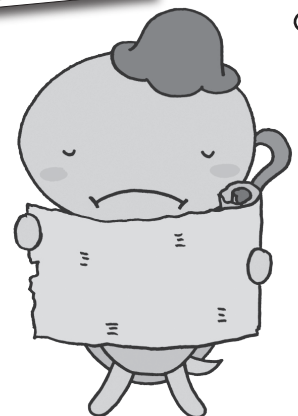
開場・受付 9:00

開会あいさつ 9:30

### 活動報告

- ・アライグマ対策
- ・ミシシippアカミミガメ対策
- ・外来スイレン対策
- ・熱田神宮の生物調査と外来生物対策
- ・ため池調査と竜巻池の池干し
- ・生物情報モニタリングデータベース
- ・なごや生きものの一斉調査・陸貝編
- ・田んぼの生きものの調査
- ・取り組みのPR

質疑応答



国連生物多様性の10年日本委員会  
生物多様性キャラクター応援団  
「だなも」

閉会あいさつ 11:30

主催：なごや生物多様性保全活動協議会

## 1 アライグマ対策

発表者：野呂 達哉（なごや生物多様性センター）

### 【はじめに】

最近、名古屋市内では外来生物法によって特定外来生物に指定されているアライグマが分布を拡大した。その結果、希少種や地域の生態系にとって大きな脅威となっており、実際にアライグマの捕食によるものと推測されるカスミサンショウウオの死体やニホンイシガメの外傷が確認されている。また、人家に住みついたという苦情も増加しており、今後、文化的価値のある社寺にも住み着いて被害を与える可能性がある。

アライグマ対策部会では市内でのこれ以上の分布拡大と増加を防いでいくことを目的として、市内緑地を中心に自動撮影カメラを設置し、アライグマが確認された地域において捕獲を実施してきた。今回は2012年2月から12月までの捕獲結果について報告するとともに、都市部である名古屋市内でアライグマを捕獲する際の問題点や課題について検討する。

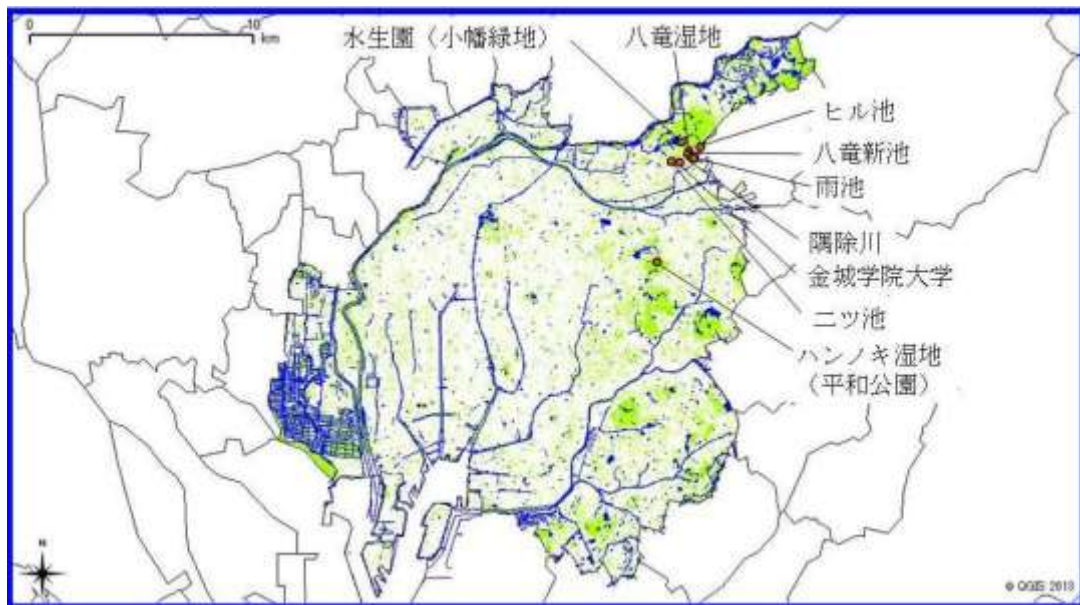


図1. 捕獲罠設置地域

### 【捕獲方法】

捕獲には箱罠を使用した。餌には主にカラアゲを用いた。罠の個数は地域によって異なり、1地域に2～10個程度を設置した。

捕獲は2012年2月から12月に実施した（ただし、河川やため池の近くでは水防期間である6月から9月にかけて罠の設置を実施できなかった）。

罠の見回りは業者に委託した（ただし、千種区平和公園においては、なごや東山の森づくりの会に、また、個人宅、個人の畑については所有者に見回りをお願いした）。捕獲期間中は見回りを毎日行なった。

## 【結果】

表1. 箱罟による捕獲結果（2012年2月から12月）

| 捕獲地域         | タヌキ | アライグマ | ネコ | イタチ類 | ハクビシン | ネズミ類 | カラス類 | ムクドリ |
|--------------|-----|-------|----|------|-------|------|------|------|
| 八竜湿地         | 0   | 2     | 5  | 6    | 3     | 0    | 14   | 3    |
| 八竜新池         | 4   | 1     | 1  | 1    | 0     | 0    | 0    | 1    |
| 水生園（小幡緑地）    | 0   | 4     | 4  | 1    | 0     | 0    | 0    | 0    |
| ヒル池          | 0   | 2     | 8  | 0    | 0     | 0    | 0    | 0    |
| 雨池           | 0   | 3     | 8  | 1    | 0     | 1    | 1    | 8    |
| 隅除川          | 0   | 0     | 4  | 2    | 2     | 1    | 0    | 2    |
| 金城学院大学       | 0   | 4     | 11 | 1    | 3     | 0    | 2    | 0    |
| 二ツ池          | 0   | 7     | 5  | 2    | 2     | 0    | 0    | 0    |
| ハンノキ湿地（平和公園） | 0   | 3     | 4  | 0    | 0     | 0    | 0    | 0    |
| 守山区個人畑A      | 2   | 0     | -  | 1    | 0     | 0    | 0    | 0    |
| 守山区個人畑B      | 4   | 0     | -  | 0    | 0     | 0    | 0    | 0    |
| 守山区個人宅A      | 0   | 1     | -  | 1    | 0     | 0    | 0    | 0    |
| 守山区個人宅B      | 0   | 0     | -  | 2    | 1     | 0    | 0    | 0    |
| 守山区個人宅C      | 0   | 0     | -  | 0    | 0     | 0    | 0    | 0    |
| 合計           | 10  | 27    | 50 | 18   | 11    | 2    | 17   | 14   |

＊：捕獲個体を回収したアライグマ、ハクビシン、ネズミ類は個体数を示すが、放逐したタヌキ、ネコ、イタチ類、カラス類、ムクドリは捕獲回数を示す。タヌキ、ネコ、イタチ類の一部、カラス類、ムクドリは、捕獲後、放逐した。

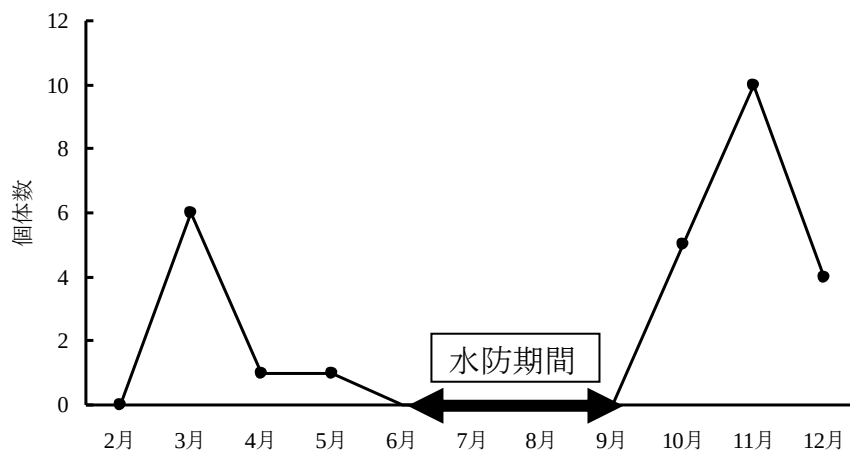


図2. アライグマ捕獲個体数の推移（ただし、水防期間の6月から9月は除く）



図3. 小幡緑地で自動撮影されたアライグマ



図4. 捕獲されたアライグマ

## 2 ミシシippアカミミガメ対策

発表者：野呂 達哉（なごや生物多様性センター）

### 【はじめに】

現在、名古屋市内では、ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ミシシippアカミミガメの生息と繁殖が確認されているが、多くの地域では外来種のミシシippアカミミガメが圧倒的な優占種となっており、日本固有種であるニホンイシガメの減少が著しい状況である。また、都市部であることから、ペットとして購入された外来カメ類の遺棄も多く、2012 年 12 月現在、名古屋市内では 17 種にも及ぶ外来カメ類（亜種、雑種を含む）が野外で確認または捕獲されている（日本カメ自然誌研究会, 2012）。

このような状況の中、在来のカメ類を保全するためには、ミシシippアカミミガメの防除、新たな外来カメ類の定着の阻止、生息場所の復元、在来カメ類の移植や再導入の試みといったことが課題となる。

今回は、2012 年度にミシシippアカミミガメ対策部会が行なったカメ類の調査から、市内各地域でのカメ類の捕獲結果、カメ類の産卵巣調査やカメ類幼体の捕獲調査結果、新たな捕獲罠の試み（浮き島型カメ罠：Floating Turtle Trap）について報告する。

### 【調査内容と調査地】

- ・罠罠による捕獲調査：竜巻池、二ツ池、隼人池、植田川、山崎川、神沢池、新海池、胡蝶ヶ池
- ・産卵巣調査：竜巻池、隼人池、新海池
- ・タモ網による幼体の捕獲調査：矢田川
- ・浮き島型罠による捕獲調査：竜ヶ池

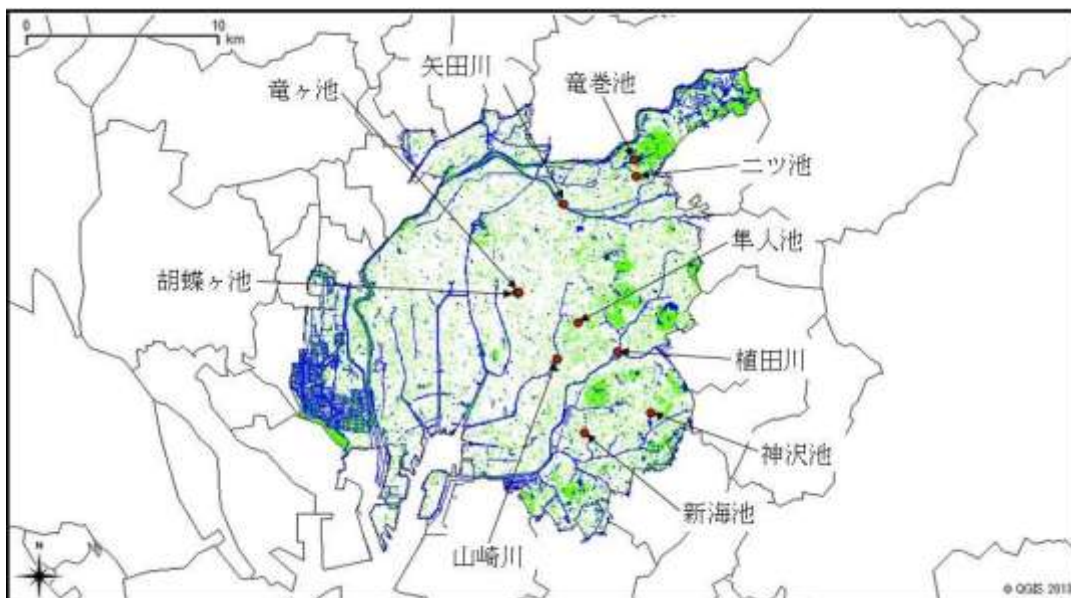


図 1. 調査地の位置図



## 【調査結果】

表 1. 罾罟および手づかみによる捕獲個体数

| 種名           | 二ツ池 | 竜巻池 | 隼人池 | 神沢池 | 新海池 | 胡蝶ヶ池 | 植田川 | 山崎川 | 合計  |
|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|
| ニホンイシガメ      | 0   | 1   | 15  | 9   | 4   | 2    | 8   | 15  | 54  |
| クサガメ         | 4   | 22  | 31  | 12  | 17  | 41   | 42  | 42  | 211 |
| ミシシippアカミミガメ | 1   | 17  | 3   | 26  | 22  | 26   | 101 | 32  | 228 |
| ニホンスッポン      | 0   | 13  | 0   | 1   | 3   | 6    | 37  | 11  | 71  |
| その他外来カメ類     | 0   | 0   | 0   | 2   | 2   | 0    | 0   | 0   | 4   |
| 雑種           | 0   | 0   | 5   | 0   | 1   | 0    | 1   | 0   | 7   |
| 合計           | 5   | 53  | 54  | 50  | 49  | 75   | 189 | 100 | 575 |

\* 基本的に外来カメ類と雑種は除去したが、植田川のアカミミガメについては一部記号放逐を行なった。在来カメ類については、計測とマーキング後、放逐した。

表 2. 産卵巣で確認した卵数と孵化した種

| 確認日        | 確認場所 | 卵数 | 孵化数 | 孵化した種        |
|------------|------|----|-----|--------------|
| 2012年6月27日 | 竜巻池  | 4  | 4   | ニホンスッポン      |
| 2012年6月29日 | 竜巻池  | 3  | 3   | クサガメ         |
| 2012年7月27日 | 竜巻池  | 6  | 5   | ミシシippアカミミガメ |
| 2012年7月31日 | 新海池  | 2  | 2   | クサガメ         |
| 2012年7月31日 | 新海池  | 6  | 0   | -            |
| 2012年7月10日 | 隼人池  | 2  | 1   | ニホンイシガメ      |

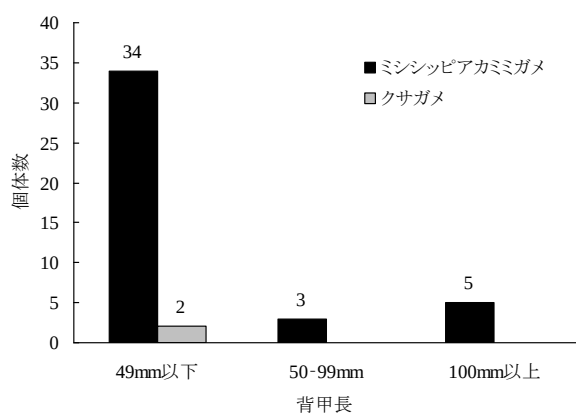


図 2. タモ網調査で捕獲されたカメ類 (矢田川)

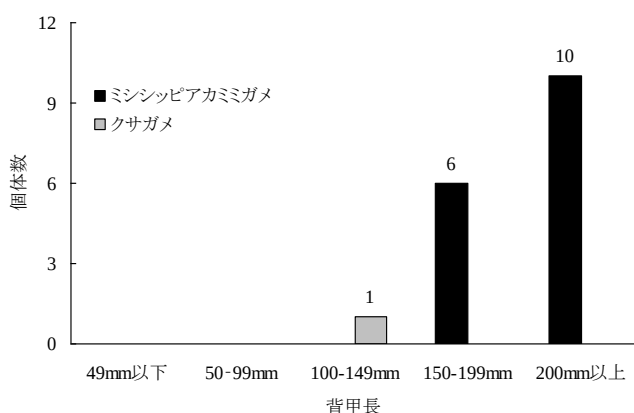


図 3. 浮き島型罟で捕獲されたカメ類 (竜ヶ池)

## ・除去した外来カメ類

ミシシippアカミミガメの除去総数は 214 個体 (調査で捕獲したもの、個人が持ち込んだものを含む。植田川で記号放逐した個体は含まない) であった。その他、外来カメ類については、カブトニオイガメ 2 個体 (神沢池)、ハナガメ 2 個体 (新海池)、雑種については 7 個体 (ハナガメと在来種との交雑を含む) を除去した。

### 3 外来スイレン対策

発表者：小菅 崇之

#### ■外来スイレンの生育状況調査

- ・平成24～25年におこなった調査によって、市内24か所で外来スイレンの生育が確認されました。

| 池の名称  | 区  | 生育状況 |
|-------|----|------|
| 新池    | 千種 | ++++ |
| 上池    | 千種 | +    |
| 奥池    | 千種 | +    |
| 新池    | 守山 | *    |
| 平池    | 守山 | +    |
| 東禅寺上池 | 守山 | ++   |
| 東禅寺中池 | 守山 | ++++ |
| 無名    | 守山 | *    |
| 弁天池   | 緑  | ++++ |
| 東ノ池   | 緑  | +    |
| 唐池    | 緑  | +    |
| 籠池    | 緑  | ++   |
| 権平池   | 緑  | *    |
| 琵琶ヶ池  | 緑  | 周辺   |
| 新海池   | 緑  | 周辺   |
| 四郎曾池  | 緑  | *    |
| 螺貝池   | 緑  | +    |
| 塚ノ杵池  | 名東 | +++  |
| デッチョ池 | 名東 | +++  |
| 牧野ヶ池  | 名東 | ++   |
| 新池    | 天白 | *    |
| 本地池   | 天白 | +++  |
| 細口池   | 天白 | *    |
| 大堤池   | 天白 | +    |



東山新池に繁茂する外来スイレン



四郎曾池に繁茂する外来スイレン



牧野ヶ池に繁茂する外来スイレン

## ■外来スイレンの除去

### 1. 小規模に繁茂する外来スイレンの除去

- ・小規模に繁茂する四朗曾池や細口池では、抜き取りにより除去をおこないました。



細口池での外来スイレン除去

### 2. 大規模に繁茂する外来スイレンの除去

- ・大規模に繁茂する東山新池では、遮光シートの被覆による除去をおこないました。



東山新池での外来スイレン除去

遮光シートの被覆で枯れた根茎

## 4 熱田神宮の生物調査と外来生物対策

発表者：中村 肇（なごや生物多様性センター）

3か年事業の2年目となる平成24年度は、水質や大気などの環境調査、植物や昆虫、クモ類、多足類、陸産貝類、魚類など生物調査をおこない、以下のような結果が得られました。

### ■水質調査

南神池の水質は、比較的良好ではあるものの、窒素やリンなどの栄養塩類が多いことから水質悪化の可能性があることが確認されました。

曲玉池の水質は、年間を通じて安定し良好であることが確認されました。

神宮会館裏の池の水質は、リン濃度が高く富栄養化していることが確認されたものの、その流入水源となる清水社の水質は、年間を通じて安定して良好な水質であることが確認されました。

### ■大気調査

熱田区役所に設置した対照区と比較して、温度では、神宮内北部で2.3℃、神宮内中部で1.7℃、神宮内南部で1.8℃低く、湿度では、神宮内北部で9.3%、神宮内中部で7.9%、神宮内南部で8.3%高くなっており、熱田神宮の森がヒートアイランド現象を緩和する貴重なクールスポットとなっていることが確認されました。

### ■植物調査

#### ・維管束植物フロラ調査

これまでの調査によって、植栽を含む88科244種の維管束植物を記録しました。信長塀以南では乾燥化の傾向が見られるものの、信長塀以北ではリョウメンシダやベニシダ、コバノヒノキシダなど10種のシダ植物が記録され、良好な環境が残されていることも確認されました。

#### ・毎木調査

神宮内の植生はスダジイ・ヤブコウジ群集へと遷移することが予想される結果が得られました。その結果、明るい環境を必要とする植物が減少するのは自然の流れではあるものの、照葉樹林下でも生育可能なシダ植物などの林床植物も貧相なことから、土壌の乾燥化が進んでいることも確認されました。

乾燥化の原因としては、現存量増加による蒸散量の増加、周辺地域の都市化による雨水浸透量の減少、地下水位の低下などが考えられます。



## ■昆虫調査

平成24年度の調査によって、69科192種の昆虫を記録しました。カメムシ目では、マエグロハネハネナガウンカやヒサゴナガカメムシなど、コウチュウ目ではキイロアトキリゴミムシやモンシロハネカクシダマシなどの記録の少ない種も確認されました。

## ■クモ類調査

これまでの調査によって、29科108種のクモ類を記録しました。これらの中には、キシノウエトタテグモやキノボリトタテグモ、ヤギヌマフクログモ、スズミグモなど、名古屋市のレッドデータブックに記載されている種も含まれ、熱田神宮の森が都市部に残された貴重な生息環境の1つであることが確認されました。

## ■多足類調査

これまでの調査によって、14科18種の多足類を記録しました。今回の調査によって、県内初記録となるサキブトジムカデやニッポンアカヤスデなども記録されました。

## ■陸産貝類調査

これまでの調査によって、20種の陸産貝類を記録しました。今回の調査によって、名古屋市のレッドデータブックに記載されているヒルゲンドルフマイマイの生体が再発見されました。また、市街地には分布しない山地性種であるミジンヤマタニシやヒダリマキゴマガイも記録されました。

## ■魚類調査

これまでの調査によって、4科9種の魚類を記録しました。修景池であるため、生息する魚類は導入されたものであると考えられるものの、カダヤシやブルーギルなどの特定外来生物については防除策を検討することが望ましいと思われます。

## 5 ため池調査と竜巻池の池干し

発表者：滝川 正子（なごや生物多様性保全活動協議会会長、  
なごや東山の森づくりの会）

名古屋市内には、110 のため池があります。

この数は、大都市としてはきわめて稀な多さで、ため池はその周辺の湿地や緑地と一緒に名古屋の生物多様性を守っています。

ため池部会は、この 5 年間で 20 近いため池における生物の生息・分布調査（ため池調査）、5 つのため池で池干しによる外来種の防除（池干し）を行ってきました。

### 1 ため池調査

右表は、過去数年間で、ため池とその周囲で確認された動物（昆虫除く）と主な植物です。

●の外来種は、どの池にも侵入していますが、その中でも在来生物はがんばって生息しています。

市内では絶滅が心配されるヌマガイやイシガメなども確認されています。東海地方だけに見られる貴重な種も確認されました。

### 2 池干し

この 5 年間で、緑区・籠池、昭和区・隼人池、守山区・雨池、天白区・大根池、守山区・竜巻池で池干しによる外来種の防除活動も行ってきました。

今年は、11 月 10 日（土）、守山区小幡緑地内の竜巻池で地元の小学生、地域住民の方々、専門家など 200 名が池内の活動に参加して池干しを実施しました。

地引き網や手づかみで生物採集。採集した生物を展示し、外来生物（オオクチバス・ブルーギルなど）140kg、池際の外来の植物（セイタカアワダチソウ）も約 30kg を除去しました。

池干しに伴う事前・当日調査で確認された生物

（外来種はゴシック）

|     |                                                                                         |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 爬虫類 | クサガメ、ニホンイシガメ、ニホンスッポン、ヒバカリ、ミシシippアカミミガメ                                                  |
| 両生類 | アズマヒキガエル、ウシガエル                                                                          |
| 魚類  | オオクチバス、ギンブナ、コイ、コウライモロコ、トウヨシノボリ、ブルーギル、ヘラブナ                                               |
| 昆虫類 | ウチワヤンマ、オオヤマトンボ、コシアキトンボ、シオカラトンボ、ハグロトンボ、ハラビロカマキリ、ヒメタイコウチ、                                 |
| 甲殻類 | アメリカザリガニ、スジエビ、テナガエビ、ミナミヌマエビ                                                             |
| 貝類  | オオタニシ、サカマキガイ、ヌマガイ、マシジミ                                                                  |
| 植物  | イトイヌノヒゲ、オニガヤツリ、セイタカアワダチソウ、トウカイコモウセンゴケ、トウネズミモチ、ナンキンハゼ、ニッポンイヌノヒゲ、マメナシ、ミゾソバ、ヨシ他、約 170 種を確認 |
| その他 | ハリガネムシの一種                                                                               |

11/24 守山ホームニュース





## 6 生物情報モニタリングデータベース

発表者：新實 豊（日本野鳥の会愛知県支部）

協議会の行う生物調査・外来生物対策や市民からの目撃情報により、外来生物をはじめとするなごやの生きものの生息情報が集積しつつある。

生物情報モニタリングデータベース部会では、これらの情報を集約・一括管理するとともに、集約された生物情報を広く提供するツールとして活用することを目的として、データベースの構築を行っている。

本報告会では、昨年度から現在までに作成した部分について報告する。

### （１）登録システムの作成（平成２３年度）

なごやの生物情報をデータベースへ出入力するとともに、市民通報の窓口としての機能もあわせ持つ登録システムを作成した。

### （２）解析・発信システムの作成（平成２４年度）

名古屋市域の生物の分布を視覚的に把握するため、集約された情報を元に分布（確認）状況を三次メッシュで地図上に表現する解析・発信システムを作成しているところである。

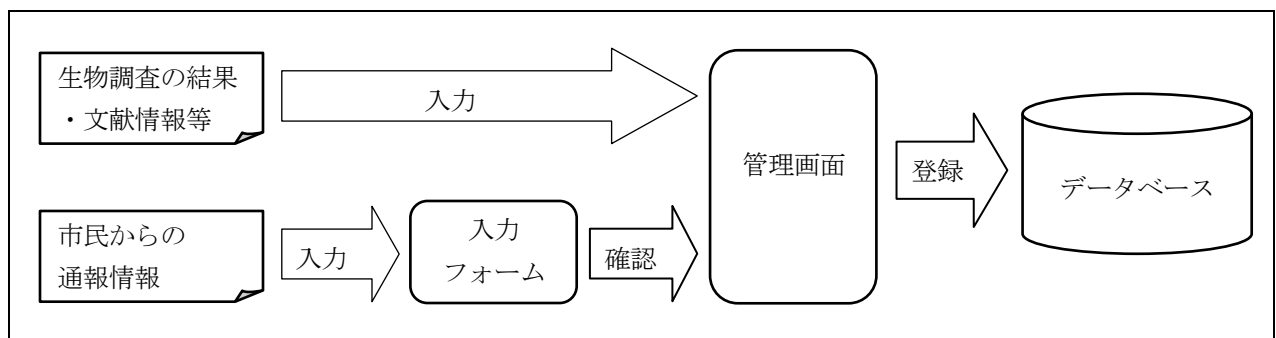


図1 生物情報の登録の流れ

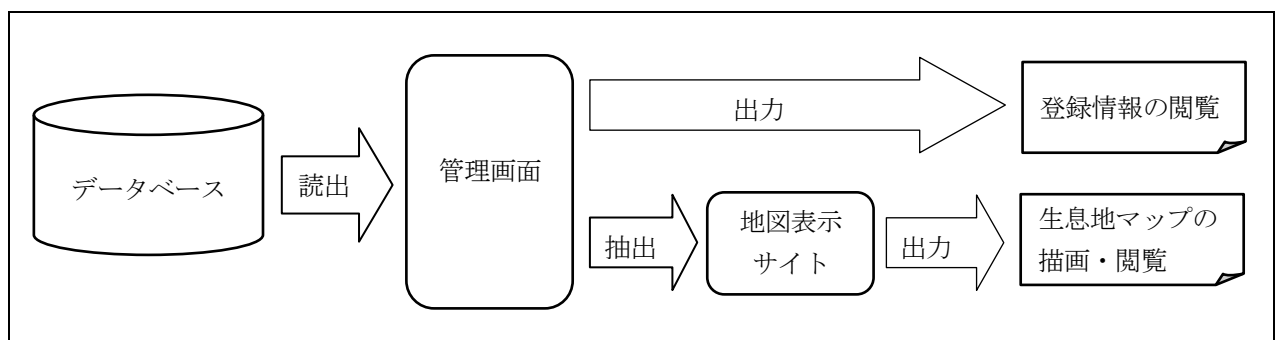


図2 生物情報の出力・発信の流れ

今後は、協議会の調査結果などをデータベースに登録するとともに、協議会ウェブサイトにも市民通報用の入力フォーム（裏面の図を参照）を設置し、登録情報の充実を図る。また、多くの市民にご協力いただけるよう広報活動にも取り組んでいく。

さらに、外来生物を中心とした特定の種の生息地マップを協議会ウェブサイトで公開していく予定である。



# 生きもの情報登録ツール

生きもの情報の入力画面

**1 お名前・連絡先**

●見つけた方のお名前・連絡先メールアドレスを入力してください。 ※必須

|           |                                             |
|-----------|---------------------------------------------|
| お名前       | 姓 <input style="width: 100%;" type="text"/> |
| 電子メールアドレス | <input style="width: 100%;" type="text"/>   |

※入力いただいたお名前・連絡先メールアドレスは、登録内容の確認など、本データベースの運用に必要な範囲内でのみ使用させていただきます。

**2 見つけた生きもの**

●『種名リストから選択』ボタンを押し、登録する生きものの名前をリストから選んでください。 ※必須

種名リストから選択

種名

亜種名

**3 見つけた日**

●生きものを見つけた日を入力してください。 ※必須

見つけた日

西暦 2013 年 01 月 08 日

**4 見つけた場所**

●下の地図で場所を指定してください。 ※必須  
 また、公園や河川などであれば、その名称を「地名」に入力してください。

|    |                                           |
|----|-------------------------------------------|
| 区  | 中区                                        |
| 町名 | 三の丸                                       |
| 番地 | 3丁目1-1                                    |
| 地名 | <input style="width: 100%;" type="text"/> |

●地図の操作方法：  
 1 生きものを確認した地域を拡大（住所からの検索もできます）  
 2 「地図の中心にマーカーを移動する」ボタンを押してマーカーを表示  
 3 マウスでマーカーをつかんで、地図上の×印を正確な位置に移動

名古屋市中区
住所から検索
地図の中心にマーカーを移動する



**5 見つけた生きものの写真**

●写真ファイル（jpg形式のみ）を指定してください。  
 ※生きものの種類を確認するため、可能な限り登録してください。

ファイル: ファイルを選択 選択されていません

次へ

登録せずに登録フォーム入り口へ戻る

図3 入力フォーム画面イメージ

## 7 なごや生きものの一斉調査・陸貝編

発表者：川瀬 基弘（愛知みずほ大学）

### ○「なごや生きものの一斉調査 2012・陸貝編～なごやで探そう！カタツムリ～」概要

【実施日程】平成 24 年 10 月 6 日（土）、7 日（日）、8 日（月）の 3 日間

【調査地点】公園、神社、緑地など市内 33 か所

【内 容】発見された陸貝の種類と数を記録

【参 加 者】計 465 名

【協 力】協議会会員など 19 の市民団体



オカチョウジガイ



イセノナミマイ

### ○名古屋市内からこんなに沢山！

市内 33 地点から発見された陸貝は **41 種 7,003 個体** で、都市化の進んだ名古屋市内でも豊かな自然が残されていることがわかりました。最も種数が多かったのは高座結御子神社(熱田区)と相生山緑地(天白区)の 19 種(各調査地点平均 9.85 種)です。陸貝の多様性(多様度指数)が最大であったのは木ヶ崎公園周辺(東区)の 3.10、次いで東山公園(千種区)の 3.06(各調査地点平均 1.95)です。最も多くの地点で確認されたのはオカチョウジガイ(30 地点)、次いでイセノナミマイ(24 地点)です。

### ○ヨーロッパやアメリカなど外来種も続々！

外来種は国内移入種を含めると、トクサオカチョウジガイ(東南アジア原産)、ノハラノイシノシタ(北アメリカ原産)、ヒメコハクガイ(北アメリカ原産)、コハクガイ(北アメリカ原産)、チャコウラナメクジ(ヨーロッパ原産)、オナジマイマイ(東南アジア原産)、アズキガイ(国内移入種)、ウスイロオカチグサガイ(国内移入種、名古屋市初記録)など **9 種** が発見されました。外来種が多いのは都市型生態系の特徴であり、既に分布を広げたこれらを取り除くのは困難ですが、更なる分布拡大を最小限にとどめ共存も考えなければならないでしょう。

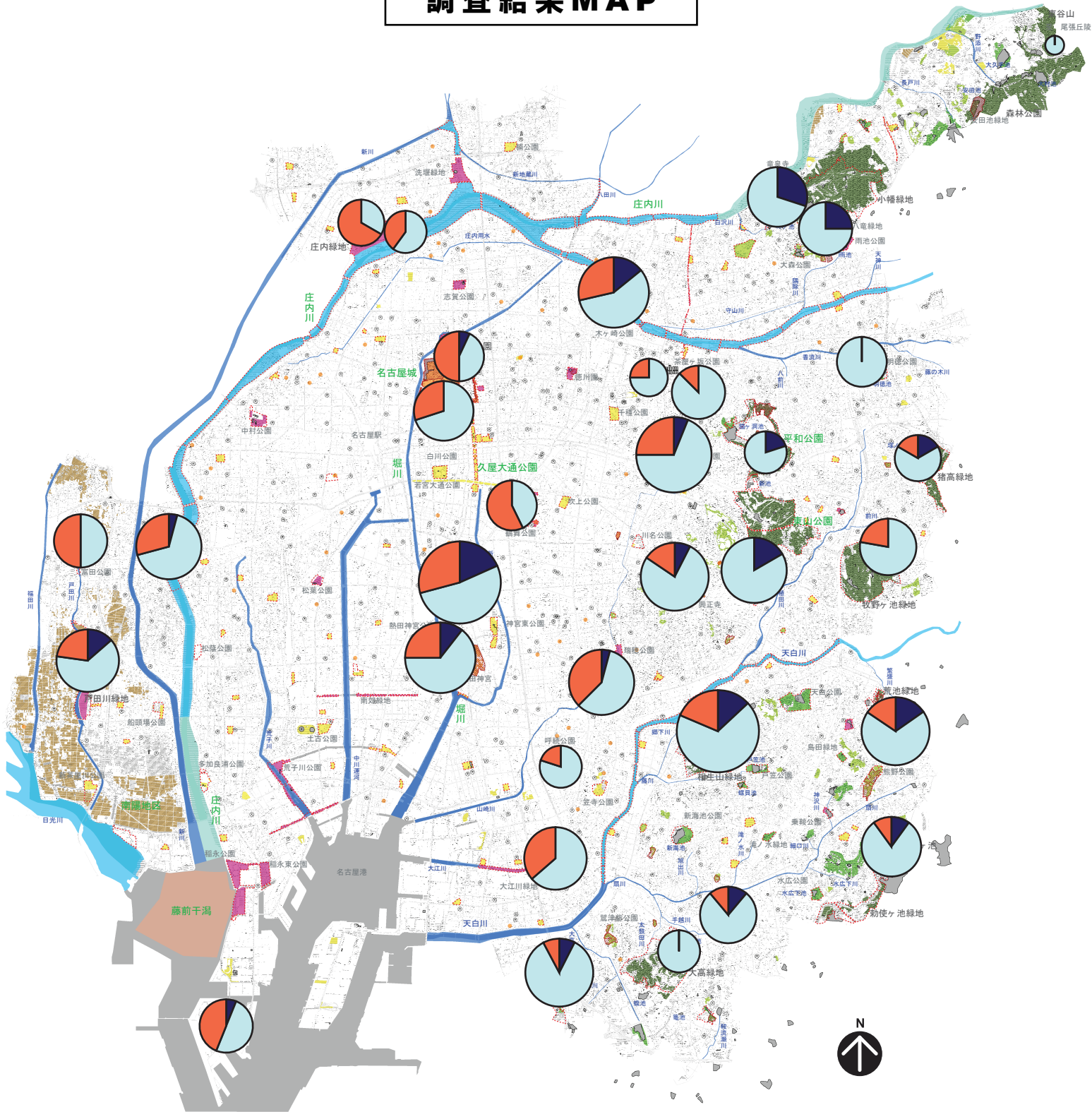
### ○貴重なデータがどんどんと増加！

名古屋市で絶滅危惧種 I B 類に指定されているヒルゲンドルフマイマイ、準絶滅危惧種(環境省)のヒメカサキビやヒゼンキビ(名古屋市初記録)など **レッドリスト掲載種 6 種**、**市内初記録**としてタワラガイ(細根公園(緑区))やビロウドマイマイ(八竜緑地(守山区))と小幡緑地公園(守山区))など **4 種** が発見されました。また、市内では滅多に見られない山地性種のミジンヤマタニシが明徳公園(名東区)で発見されました。名古屋城外堀(中区)はオオケマイマイが多産する最後の楽園であることも分かりました。

### ○陸貝は生物多様性の“ものさし”

陸貝は陸上の様々な環境に適応しています。自然度の高いところにしか生息しない種、乾燥に強い種、市街地を好む種など、このような指標性から調査地の環境や自然度を診断することができます。陸貝はとても身近な親しみやすい生きものです。また、子供から大人まで誰でも気軽に探せます。そして今後も名古屋市からの新しい発見が期待できます。

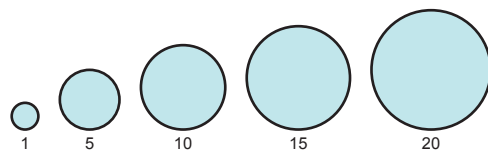
# 調査結果MAP



## 在来・外来種の内訳

- レッドリスト記載種
- 在来の陸貝
- 外来の陸貝

## 観察できた陸貝の種数



※このマップには、独自調査の結果の一部を反映していません。  
 ※このマップは、名古屋市いきものすみかマップをもとに作成しました。



## 8 田んぼの生きもの調査

発表者：高山 博好（耕さない田んぼの学校エコたん）

昨年同様、市民の体験用に環境局が管理している水田（通称ビオでん 港区）において、生物調査を行った。同時に戸田川緑地の「西の森」でも昆虫調査を行い、名古屋市西部の生物多様性を探った。調査日程は動物が5月30日、8月2日、9月21日、10月21日に、植物が4月26日、7月16日、10月24日に行った。

また水田部会の企画として、会員である日進野菜塾（日進市 天白川流域）の水田で市民対象の生きもの観察会を7月28日に開催し、港区のビオでんとの比較を楽しみ、同時に当日午前中に昆虫調査を行った。

今年度で「ビオでん」の事業が終了したため、来年度以降の調査は戸田川緑地公園内外の調査となる。また水田の返却準備があるため、植物は早春にもう1回調査したかったが叶わなかった。

今後のテーマは外来種の調査と駆除に重点を置くため、今年度はそれに注目した。昆虫では外来種の割合が比較的少ないものの、かつては普通に見られたものが希少種として数種確認された（写真）。植物においては確認できた133種のうち32種（24%）が外来種を占め、キク科が多くを占めた。これには史前帰化植物を含めず、江戸末期以降に移入したいわゆる新帰化植物と園芸種の逸脱したものを対象とした。

表 2012年度の水田生物調査結果

|       |     | 科数  | 種数      |
|-------|-----|-----|---------|
| ビオでん  | 昆虫  | 19科 | 43種     |
|       | 両生類 | 2科  | 3種      |
|       | クモ  | 6科  | 15+2不明種 |
|       | 植物  | 40科 | 110種    |
| 日進野菜塾 | 昆虫  | 26科 | 34種     |

### 写真



## 9 取り組みのPR

発表者：眞弓 浩二（雑木林研究会）

### 1 なごや生物多様性センター開設記念行事「なごや生物多様性センターへ行ってみよう！」の共催

- 日程：5月12日（土）、13日（日）
- 出展内容：協議会として次のとおり出展。
  - パネル展示 19会員
  - ブース出展 10会員11ブース
- 来場者数：計2,200名



開設記念式典（5/12）

### 2 生物多様性サマースクール「なごや生きものいきいきウィーク」の開催



講座「昆虫採集と標本づくり」（8/26）

- 日程：8月20日（月）～26日（日）
- 内容：「夏休みの宿題応援します！」として、親子で参加いただける講座や展示を実施。
  - 調査・体験型および座学型講座 計20本
  - パネル・生体・標本の展示（25、26日のみ）
  - 生きもの何でも相談室（25日のみ）
- 来場者数：計600名

### 3 事業報告書の発行

- 内容：一年度間に協議会が実施した調査・保全活動の調査結果等を記載。  
平成23年度版は、市図書館などで閲覧可能。

### 4 定例会の開催

- 開催日：毎月第一水曜
- 内容：会員間の活動報告や講演会などを通じ、お互いが学び合う場として開催。会員であればどなたでも参加可能。
- 過去の発表者：
  - 第1回（10/3） 中井保三さん、なごや外来種を考える会
  - 第2回（11/7） 名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち、松沢孝晋さん
  - 第3回（12/5） 名東自然観察会、豊橋技術科学大学研究員 藤森憲臣さん
  - 第4回（1/9） もりづくり会議、藤前干潟を守る会



第4回定例会（1/9）



## (参考) なごや生物多様性保全活動協議会とは？

### 【設立の経緯】

名古屋市には東部丘陵地を中心に111個ものため池が現存しています。しかしながら、都市農業の衰退により、ため池の主な役割が「利水」から「治水」に変化しました。そのため、人とため池との係わりが希薄化したことや、外来生物の侵入によって在来生物が減少したことで、ため池生態系の劣化が進んでいると言われています。

このため、平成20年度から3年間、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を設立し、地域住民・市民団体・行政が協働でため池の生物調査や保全活動を行ってきました。

平成23年度からは、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げるとともに、侵略的な外来生物の防除に力を入れるなど、活動内容を拡充するため、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」の組織体制と人材を拡充して、「なごや生物多様性保全活動協議会」を設立しました。

### 【設立の目的・活動内容】

なごや生物多様性保全活動協議会は、「なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来生物の防除などを通し、身近な自然の保全を実践する」ことを目的に、平成23年5月15日に設立されました。

協議会では、市民・専門家・行政が協働で、地域の野生動植物の生息・生育調査や外来生物対策などの保全活動を行っています。

### 【協議会の組織・構成】

協議会には、会員から選任された会長・副会長などの役員と、幹事会が置かれています。さらに、活動内容ごとに部会が設置され、協議会の活動は、この部会が幹事会の承認を受けながら実施しています。



また、協議会は、（平成25年1月21日現在）市民団体や学識経験者、専門家、行政など、33の団体、個人21名と名古屋市で構成しています。これらの会員は、それぞれ希望する部会に参加し、様々な活動に取り組んでいます。

☆最新の協議会の活動内容については、ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.bdnagoya.jp/>   もしくは   QRコード⇒

